

団長の独り言

12月25日(日)「うんん…」

今日はクリスマスど真ん中だけど、我々は普通に稽古がございました。

稽古場に集まるメンバー達は、クリスマスだからって「どうしたこうした」って感じはまるでなくて、全くいつものとおりに明るく、元気に稽古場に集まって来る。

普段の生活の中では、辛い事や悲しい事、イライラしてあたまに来る事やら色々があるけれど、稽古場に来てみんなの笑顔にふれると、そんなものも吹っ飛び、「人生芸夢く夢のとおり道く」をどのように盛り上げていくのか?という事に全神経を集中させる。

その稽古場では開始までのたわいもない時間に、あちらこちらで楽しそうに話しをしているメンバー達。そんな姿を遠くから眺めているのも好きなんです。どうせやるなら、楽しい雰囲気の中で稽古するほうがいいに決まっているからね。ただ…だからと言って、仲良し演劇サークルにはしたくない。

5日前よりチケットの販売を開始したのだが、早速ネットからのお申し込みが何件もあった。

予約を下さった皆さんは、チラシやネット、または区が発行している情報誌等で、前回公演「久美・美容室物語」の

事を知って、公演を観劇して下さった方ばかりで、「次の劇団ふあんハウスの公演も観てみたい!」との事で、劇団からの公演のご案内が届いたタイミングで、チケットのお申込みをして下さったのです。勿論!メンバーの知り合いの方や、何度も劇団ふあんハウス公演を御覧になられている方も、今回の公演も大変楽しみにして下さっている。

そうした方々の期待に応える芝居をちゃんと届けるためにも、「仲良し演劇サークル」ではいい作品は作れないわけで、はじめをつけて、「やるときはやる」って雰囲気はとっても大切にしている。

当然、今いるメンバー達の誰もがこうした私のポリシーに賛同してくれているので、「始めます」というとピリッと引き締まるのです。

まずは前回の稽古で散々苦勞したシーン5、「夜の楽屋」から稽古を開始する。何をそんなに苦勞したのかと言えば、このシーンは登場人物が多く、その多くの登場人物達が、どこにどう動いているかの判断が出来ず、右往左往しているうちに説明セリフ的な長セリフを言う役者達が、全くセリフを自分のモノにしていなくて、「素人演芸大会」を観ているかのようなシーンとなってしまっていた。そこで前回の稽古では、何度も何度もこのシーンを繰り返し返したけれど、一向に良くなる兆しすら見えず…。

いい加減耐えられなくなったので、私は自分の台本の中に描かれている「シーン5」全てに斜線を引き、バツサリカットする事を考えた。

ただ作者としては、シーンをカットするなんてのは身を切られるほど辛いわけで、だからそりゃ〜出来る事ならばシーン丸ごとカットなんてしたくないけれど、全く良くならない無様なシーンをお客様にお見せする事は、楽しみにして下さっているお客様に対して失礼極まりないので、苦渋の決断とばかりに「シーン5はカットします」って言いかけた…が!「1週間待ってみよう」って思い直し、本日、再びこのシーン5を行って見たら!

いやあ〜いいんですわあ〜。テンポもいいし、各役者のセリフもすんなり心に入って来るし、私が意図する芝居にかなり近づいたシーンとなっていた。「このシーンカットしなくて良かった〜」とホッと胸を撫でおろし、次なるシーンに進むと…:出だしから「台本をちゃんと読み込みましたか?」って言いたくなるくらい、場違いな芝居で始まり、続く3人の役者達も、根本的な捉え方を間違えた芝居を平然とやってのけていた。そこでまた丁寧なる説明と、身振り手振り、時には実際に演じて見せると、ここはね、すんなりダメも通ったので、時計とにらめっこしながら、よし!次のシーンだ!と、ラスト近くで全ての役者が登場するとあるシーンを行えば…

またしても、気の抜けたコーラ状態の芝居のオンパレード。どうやら登場人物が沢山出るシーンになると、この現象は起きるようだ。全員でザワザワ出てきて、ザワザワ帰るだけのシーンなのに出来ない。

2度ほど繰り返しただけだ。

この日の稽古スケジュールでは、ラストシーンまで行く予定だったのだが、中途半端に終わらせて次に進んでも、結局は次のシーンも中途半端に終わってしまう。仕方ない!腹を決めて、稽古終了時間までこのシーンとじっくり向き合えば、かろうじて形にはなったけど…。

年内の稽古で全てのシーンをとりあえず細かく付けるはずだったのに、最後のシーンまで行けずじまい。

幸い、急きょ決まった30日の特訓稽古には、全員が参加してくれるとのことなので、30日には、なんとか形にはしたい。

何度も描くけれど、我々の芝居を楽しみにして下さっているお客様がいるんです。だからね、やっぱりちゃんとしなきゃいかんのですよ。

次の特訓稽古では、どの役者も死ぬほど台本を読んで、キッチリ準備して挑んでくれると思うので、今年最後の稽古をいい感じで終えて、年明けはさらに前に進めるようにしたいと思う。

では皆様、よいお年を。